健康・福祉部会

部会長　延　谷　鐵　子（のぶたに　てつこ）

今年に入ってから、新型コロナウイルス感染拡大に伴い自粛を余儀なくされ、活動自体が思うように出来ず大変戸惑って居ります。例年ならば３月に部会を開催し、一年間の活動についての反省、並びに次年度の活動計画、そして意見交換等の話し合いを行うのですが、それも出来ないまま新年度を迎えてしまいました。

コロナウイルスの感染予防対策として「３密」を避け、殆ど外出もせず「ステイホーム」で誰とも会うことなく我慢しながら生活して来た結果、「人とのつながり」「社会とのつながり」の大切さ、必要性を改めて強く実感したところです。

最近では当初に比べて自粛も随分と緩くなって来ましたが、感染がいつ収束になるか先が見えず、まだまだ不安は残ります。これからはコロナウイルスと共存しながら、しっかり対策も取りながら、活動していくことが肝要だと思います。今年度も誰もが明るく楽しく、安心安全に生活できる地域を目指して活動して行きます。活動の具体的な内容についてはチラシ等にてご案内をしたいと思いますので、ご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。

メンバー

延谷鐵子・市川周・角野正治・近藤捷治・坂井紀子・篠原修・仁科豊枝・野村四郎・原口知行・平岡典子・藤田順子・保坂シヅヨ・三島愛子・山口佳二・吉岡一代・中村正輝・田中正和・柴立浩二・善尾正雄・原田かほる

北浦街道探訪記シリーズ　第６回

山の口町縦貫道市道の開通

今から百二十三年前（明治三十年）唐戸周辺の埋立てが完了した。その頃山陰路（北浦街道）と市街地を結ぶ公道は、幡生町～石神町～一里山～大平山～赤岸通りだけであった。しかし、大平山の西麓高台の急坂道は超難所として新道の建設が渇望されていた。本縦貫道は、石神町に通ずる峠道を大堀削して明治三十七年六月に五十四件の寄付者により開通した。ここに建つ市道竣工記念碑はその当時の地域の町内（十九件二千六百万円）・個人（三十四件六百万円）山の口溜池所有者より五十六坪。合計五十四件の三千二百万円（現在貨幣価値換算推測）と切望と熱意溢れる寄付があった証として今に伝えている。

碑は前大田酒店・前中川米穀店・前坂根呉服店前に位置しており、山の口町の歴史の象徴として後世にも伝承すべき出来事として残っている。今は、周辺を花壇として町内の皆さんが四季を通じて手入れをされていることからも当時の喜びの思いが現在までも継承されている。それまでは袋小路であった山の口町は山陰幹線要路して以降飛躍的に発展をしてきた。

こうした縦貫道開通に至る背景には、明治二十年から二十三年十二月には、山の口町・貴船町・上田中町周辺一帯に下関重砲兵連隊が設置され軍の諸施設が建設されはじめた。明治二十二年には、東駅～西の端の県道が大改修され新道路となった。明治二十八年には山の口町の前下関税務署と甲斐弁護士宅敷地に（現在は、アーデント山の口マンション）下関要塞司令部が設置された。その後、明治二十七年～二十九年にかけて田中川河口の埋立てがなされ唐戸湾が現在の唐戸として栄えていった。故に本縦貫道の存在が如何に重要だったかを物語っている。（山の口町中川米穀店様及び中村自治会長様のご協力により記事作成・山縣邦光記）